

NO:57.1 形式: C-2S (LP 用) サウンド(Sound) 東京サウンド(株)



(ニート、東京サウンドとソノボックスは共同開発したようです。推測)

① バランスフラックス、② 30 ~ 15,000、③ 12、④ 2 mil、⑤ 13、⑥ 3-7、⑦ 600、⑧ 50-80、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭ 6、⑮、⑯ 1950、⑰ 9,800、⑱、⑳ SG'78、フォノカートリッジ大全（海老沢徹著）を参考

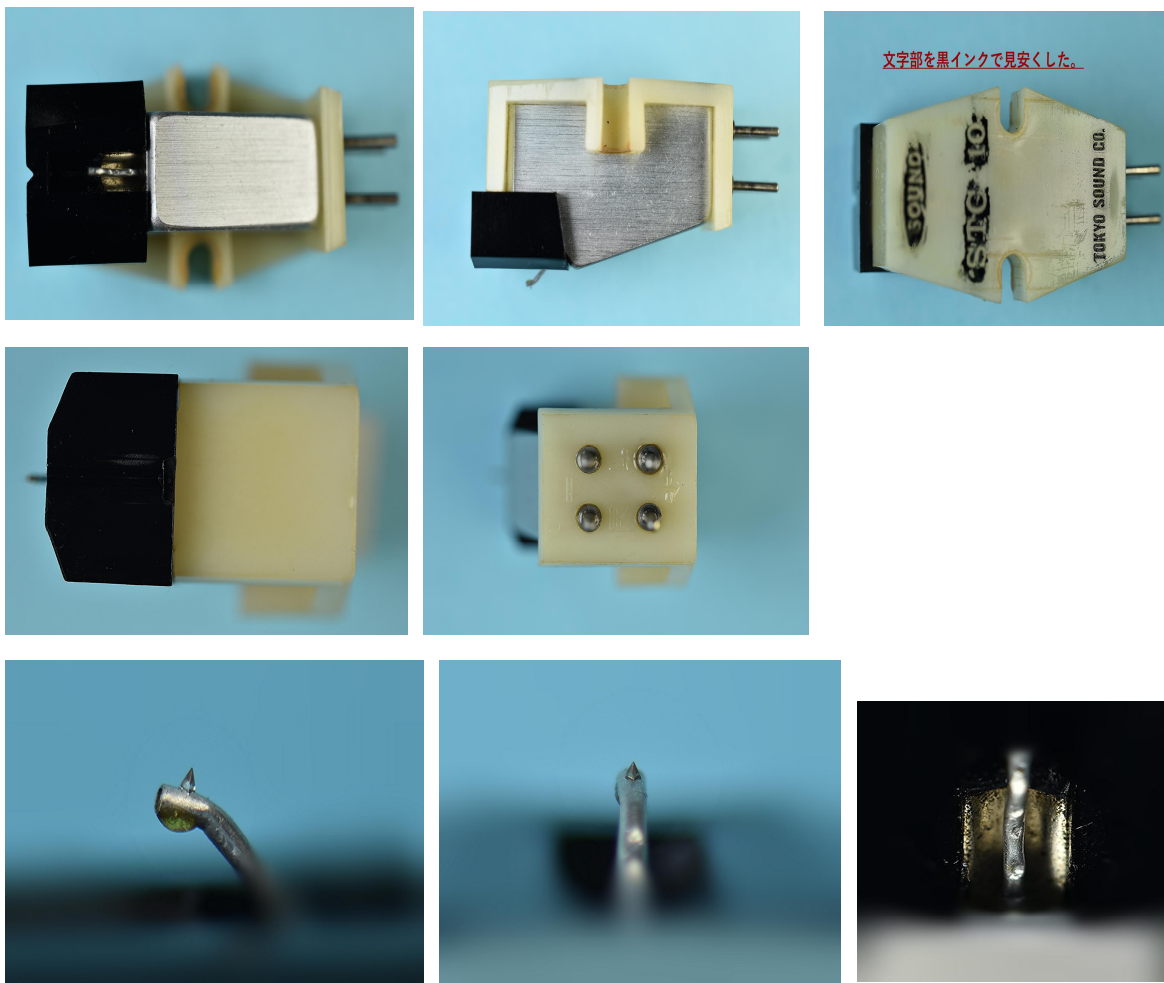
特記事項：カンチレバー部の白いペンキは針先の種類を表す。（10種類あった。フォノカートリッジ大全（海老沢徹著）から）。この製品には東京サウンドアーム用のホルダー（SP表示）が附属しています。

スタイラスは白ペンキ表示 SP(2mil)用針先です。（4-LP-10(1mil)は青ペンキ表示、4-LP-7(0.7mil)は黒ペンキ表示、4-SP(3mil)は黄色ペンキ表示という情報もあります。）

1933年創業の東京サウンドは、翌年、他社と共同で日本の国産初のバリラ型モラルカートリッジを開発したようだ。型式の「C」はNHK納入品で、東京サウンドの直接発売品は「STC」が付くように推定しました。

コメント：NHK仕様のカートリッジ、はりの摩耗も少ないレア製品。試聴したところ明瞭感ある良い音が出ています。

NO:57.2 形式: STC-10 サウンド (Sound) 東京サウンド (株)



(インターネット情報他)

- ① MM ② 10 - 25 k、③ 5 ④ 0.55 mil ⑤ 6.0 (実測) ⑥ 0.7-2.0 ⑦、⑧、⑨、⑩、⑪ 25、⑫、⑬ 8.5、⑭、⑮、⑯ 1970、⑰ 6,900、⑱、⑳ インターネット

特記事項：カンチレバーの大きな凹部が気になります。インターネットの商品にもこれに似た凹部があるように見えますので当初からのものと思われる。

1978年にSTC-11、MM型を発売しているが、外観形状は大きく異なっています。

コメント：1.5gで試聴したところ、出力電圧は3mv位、柔らかな優しい音です。低音はツマリ気味に感じます。